築港小学校 保護者説明会 会議録（概要）

■ 日　時　　令和 8 年 10 月 1 日（木）19：00 ～ 20：00
■ 場　所　　中央公民館　多目的室（大）
■ 参加者　　保護者 22 名
■ 傍聴者　　市議会議員 1 名、一般 0 名

1　築港小学校再編について

事務局：　資料に基づき説明

2　質疑・応答

保護者１：　2 点質問があります。

1 点目は、「適正規模化」と「多様性」という言葉がよく出てくることについてです。個人的には、この 2 つは矛盾している部分が多いように思います。例えば複式学級は、まるで悪いことのように言われていますが、多様性という面で見れば、複式学級はむしろ良い面もあります。人数にこだわっているのか、多様性を確保したいのか、説得力に欠けると感じました。

昭和や平成の時代のように、30 人を集めて一律の集団教育をするということであれば、少人数学級のほうがよいのではないかと思います。適正規模と、多様性を確保するための教育内容のどちらが優先なのか、具体的にイメージできる形で示してください。

2 点目は通学路についてです。2 キロ以上はバス通学になるということは分かりました。では、2 キロ圏内の通学環境はどうなるのでしょうか。

現在、旗振りや横断歩道での見守りは、PTA の方々が担ってくださっています。しかし、子どもが減れば親の数も減り、PTA 自体がなくなっていく動きもあります。親が少なくなった状態で、拡大した通学路を見守れるのでしょうか。2 キロ圏内の通学は、誰がどのように管理し、どのような負担が生じるのかを、もう少し具体的に示してください。

事務局：　まず「適正規模化」と「多様性」についてお答えします。

今、学校で子どもたちが行っている授業は、先生が教えて子どもが学び取るものだけではありません。例えば、答えの出ない問題がたくさんありますが、そのような問いについて、子どもたち同士で議論しながら最適解を見つけていく授業づくりを目指しています。小規模な学校を否定するわけではありませんが、小規模であれば、子どもたち同士がお互いをよく知っている状況で、6 年間の教育活動を送ることになります。一方で、今回の適正規模化は、いろいろな考えを持つ子が身の回りにいつもいて、自分に合った学びを選んでいける環境を目指しています。集めて効率よく全員に同じことを教えるのではなく、世の中には多様な人がいるということを、学校教育の中でも学んでほしいという思いで、この計画を策定しています。

事務局：　2 点目の通学路についてです。

今後の再編にあたっては、築港小学校と宇野小学校で、PTA の運営の形がそ

れぞれ異なります。他の学校の再編においても、再編準備委員会の PTA 部会で、今後の PTA 活動のあり方や、今回の再編で削減したほうがよい活動などについて、具体的な議論を進めています。そうした中で、細かな取り決めも具体化していくことになります。また、地域のボランティアの方が善意で通学の見守りをしてくださっている場合もあると思います。そのような方がいらっしゃれば、こちらにお知らせいただければと思います。学校等と協力しながら、再編後もどのようなご協力をいただけるか、お声がけをさせていただく予定です。

保護者１： 多様性についてのお考えは分かりましたが、子どもの数が減少していくことを考えると、統合しても、結局は誰がどのような考えを持っているか把握できる人数になってしまうのではないでしょうか。PTA についても、今の状況を前提に考えられている面が多いと思います。PTA に入る人自体が減り、PTA で対応できなくなった時にどうするのか、もう少し考えていただきたいです。

保護者２： 築港 4 丁目は、田井小学校も指定校になるのでしょうか。

事務局： 築港 4 丁目にお住まいの方は、田井小学校と宇野小学校のどちらも同程度の通学距離となっています。計画の策定段階で、保護者の方から「田井小学校に通いたい」というご意見を踏まえ、令和 15 年までは調整区として、田井小学校を指定校として選ぶか、築港小と宇野小が統合した新しい学校を選ぶか、どちらかを選択できる区域としています。通常、築港にお住まいの方が田井小学校を選ぶ場合は指定校変更という扱いになり、補助は出ませんが、築港 4 丁目の方は、どちらの学校を選んでも、2 キロ以上の距離であればバス通学の補助対象区域として計画しています。再編の 1 年前に、在籍されている保護者の方々に改めて個別に調査を行い、田井小学校と新しい学校のどちらを選ぶかを伺う予定です。

保護者３： 私の家は資料にある 2 キロ地点の近くにあります。どちらの学校を選んでも 2 キロは超えませんが、駅を通っていく道でも、階段を使って宇野へ向かう道でも、遠回りになるため、実際は 2 キロを超えます。どちらの学校を選んでも、バスは使えないということでしょうか。

事務局： 境界の部分は今後慎重に決めていかなければならない協議事項です。今後設置する再編準備委員会で意見を出していただき協議することになりますので、ご理解いただければと思います。

保護者４： 私の家は、築港 4 丁目の赤い範囲内にありますが、その場合、田井小学校を選んだときにバス通学の対象になるのか、再度教えてください。

事務局： この赤い範囲は、あくまで宇野小学校からの距離で範囲分けをしており、田井小学校からの距離で見ると、2 キロ未満になる可能性があります。
基本的な考え方として、2 キロは、最寄りの幹線道路から小学校までの距離を測ります。どの道を通るかによって距離は大きく変わるかもしれませんが、最寄りの幹線道路から小学校までが 2 キロ未満であれば、徒歩通学になります。

保護者４： 分かりました。子どもが少ないから統合するだけではなく、子どもを増やしていくという考えはないのでしょうか。子どもたちが玉野で育っていけるように、増やしていくという考えがないのは寂しく感じました。統合ばかりでなく、子どもたちが増えて、地域が栄えていくといいなという思いがありましたので、お伝えさせていただきます。よろしくお願いします。

保護者５： 令和 10 年度に入学する娘がいます。統合でまた子どもたちがばらばらになるくらいなら、最初から田井小学校か宇野小学校のどちらかを選ぼうかと考えています。統合前にどちらかを選ぶ場合、バスなどはどうなるのでしょうか。

事務局： 再編の基本的な考え方として、通学費用の補助は、新しい学校になる年から、その学校に通うためのものになります。それ以前に学校を変える場合は、指定校変更の考え方に基づくため、統合までの期間は補助が出ません。

保護者６： 私の家は 2 キロ圏内ですが、住宅街の近くのトンネルを歩いて通学することになると思います。トンネルは、高校生や中学生の自転車がとても多く、毎日見ていて危険だと感じています。また、トンネル内の照明が暗く、下校時に子どもが 1 人で帰ってくることも不安です。トンネル環境の改善などをお考えかお聞きしたいです。

また、子どもが 2 年生と 6 年生のときに学校が統合する計画となっています。その際に制服が変わるとしたら、保護者がすべて負担することになるのか、教えてください。

事務局： 1 点目の通学路についてです。小学校については、どこを歩いて通学するかを今後具体的に検討していくため、現時点ではまだ通学路は決まっていません。ただ、トンネルの中が暗いことは把握しています。大規模な工事になるため、どこまでできるかは分かりませんが、照明をどうするかなど、多くの意見が出てくると思います。それらを 1 つ 1 つ市の担当部署などに要望し、安全に通学できるよう対応していきたいと考えています。

制服、体操服、学用品については、在校生にはしばらくの間そのまま使っていただけるよう、継続期間を設けようと考えています。保護者の負担も考慮しながら検討していきます。

保護者７： 老朽化により大規模な修繕や改修が必要になると思いますが、人数が増える前に改修してしまうのでしょうか。今の学校で、人数が増えた後に再び老朽化が進むと、負担が非常に大きいと思います。

事務局： 教育委員会としては、まずこのような説明会を、保護者の方々に対して開催します。その後、地域の方々にも再編の説明をしていきます。その中で、皆様から一定程度のご理解をいただけた段階で、次のステップとして、具体的な検討を進める再編準備委員会を立ち上げる流れで進める予定です。教育委員会としては、皆様のご理解をいただきながら進めたいと考えています。最終的には、議会の議決によって、学校が閉校になるかどうかが決まるため、大幅な改修については、その学校が新しい学校として確実にスタートすることが決まってから、設計、工事の順に進めさせていただきたいと考えています。

保護者８： 令和 16 年度には、複数学級の学年が半数となり、単学級が増えてしまう想定となっています。想定している学級の最大人数は、現在と変わらないのでしょうか。

事務局： 現在のところ、35 人で変わらない想定です。

保護者８： 学級の最大人数をもっと少なくすることを考えるべきではないかと思っています。単学級ではクラス替えが少なくなりますが、複数学級があれば、クラス内の悩みを抱えていても、学年が変わるときにリフレッシュできるといった効果もあります。

また、再編して学級数が増えるのであれば、1 人の先生が見る人数は、多いよりも少ないほうがよいと思います。玉野市独自で学級の人数を調整できるのであれば、それは玉野市の魅力にもなるのではないでしょうか。この点について、真剣に検討していただきたいです。

保護者９： 再編が見えている中で、これから入学される学年の方々が宇野小学校や田井小学校を選ばれ、築港小学校の入学者数が減っていくことを懸念する意見が出ています。すでに再編を進めている中学校などでも、同じような現象が見られると聞いています。PTA 同士でも、同じ学校同士で連携するなど、何かしなければならないという話をしています。市として、この面について何か具体策やお考えがあれば、お聞かせください。

事務局： 本日のご意見にもあったように、先を見越して早めに移動したいというお考えもあります。一方で、築港小学校が閉校になる最後まで、自分の学校は築港小学校だという思いを強く持って、残りたいと考える子どもたちやご家庭もあると思います。そのような中で、教育委員会として、必ず残らなければならないと一律に縛ることは難しいと考えています。1 つ 1 つのご意見やお話を伺い、寄り添いながら進めている段階です。そうした中で、新しい再編に向けて、築港小学校だけでなく、統合先となる宇野小学校との交流活動や体験活動を増やすなど、子どもたちの気持ちに少しずつ寄り添える取り組みをしていきたいと考えています。

保護者９： 各校の交流事業などを、教育委員会が考えてくださることもあるのでしょうか。

事務局： 教育委員会としては、各学校に依頼をし、実際の計画は学校が立てていくことになります。すでに話が進んでいる中学校や小学校では、何回か交流活動を行ったり、実際に通学の練習をしてみたりと、さまざまな取り組みを行っています。

保護者 10： 築港 4 丁目に住んでいます。宇野小学校と田井小学校を選べるということですが、その場合、通学班はどうなるのでしょうか。

事務局： 通学班については、具体的にはまだ決まっていません。通学安全部会などで決定していくことになると思います。基本的には、子どもたちが安全に登校できるよう、できるだけ近くの子が一緒に集まる形にできればと考えています。

事務局： 本日はありがとうございました。本日配布した資料の最後のページに、QR コードを添付しています。アクセスしていただくと、ご自身の思いや意見、疑問に思われていること、改善してほしい要望などを入力できる自由記載のフォームにつながります。また、本日の資料は、参加できなかった方にも tetoru で送付し、そうした方々からも広くご意見をいただきたいと考えています。いただいたご意見や、本日お答えできなかった点については、改めて説明会を開催し、お答えする予定です。よろしくお願いいたします。